

(別紙様式4)

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和元年10月16日※1
(前回公表年月日:平成30年11月3日)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																							
大阪工業技術専門学校		昭和51年10月1日		校 長 福田益和		〒530-0043 大阪府大阪市北区天満1-8-24 (電話) 06-6352-0091																							
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																							
学校法人福田学園		昭和40年3月31日		理事長 福田益和		〒530-0043 大阪府大阪市北区天満1-9-27 (電話) 06-6352-0093																							
分野	認定課程名		認定学科名		専門士		高度専門士																						
工業	工業専門課程		ロボット・機械学科		平成25年文部科学省 告示第3号		—																						
学科の目的 モノづくりの世界では、機械工学・電子工学・コンピュータの3分野に精通した技術者のニーズが、益々高くなってきている。ロボット・機械学科では、実際にモノを作る実習を通して、その為に必要な知識を得られるようにカリキュラム構成されており、未来に向けて繊細で力強く知的で地球と人に優しい「創造性豊かなエンジニア」の育成を目的としている。																													
認定年月日 平成27年2月25日																													
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単 位数	講義		演習	実習	実験	実技																					
2	昼間	1,836時間	680時間		476時間	1,156時間																							
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の 内)	専任教員数		兼任教員数		総教員数																				
80人		87人		25人	3人		11人		14人																				
学期制度				成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 秀・優・良・可(100～60点)を合格とし、不可(59点以下)を不合格とする。※但し、現2年生に関しては、優・良・可・不可での判定。																							
長期休み				卒業・進級 条件		進級条件は必修科目・選択必修科目16単位を含め、合計36単位以上履修合格すること。また、卒業条件は必修科目・選択必修科目合計34単位を含め、総合計74単位以上履修合格すること。																							
学修支援等				課外活動		■課外活動の種類 バリアフリー見学会、全国専門学校ロボット競技会参加、Hondaエコラン参加等 ■サークル活動: 有																							
就職等の 状況※2				主な学修成果 (資格・検定等) ※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報)																							
						<table><tr><td>資格・検定名</td><td>種</td><td>受験者数</td><td>合格者数</td></tr><tr><td>2次元CAD利用技術者2級</td><td>③</td><td>20人</td><td>11人</td></tr><tr><td>ビジネス能力検定2級・3級</td><td>③</td><td>29人</td><td>24人</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	2次元CAD利用技術者2級	③	20人	11人	ビジネス能力検定2級・3級	③	29人	24人								
						資格・検定名	種	受験者数	合格者数																				
						2次元CAD利用技術者2級	③	20人	11人																				
						ビジネス能力検定2級・3級	③	29人	24人																				
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																													
■自由記述欄 第27回全国専門学校ロボット競技会「スチールファイト」 ・有線型ロボット対戦競技～【優勝】 ・二足歩行ロボット対戦競技～【優勝】 ・自律型ロボット対戦競技「ハードウェア部門」～【優勝】																													
■その他 ・進学者数:2人 ・内訳:大学編入1人、外国の大学1人 (平成 30 年度卒業生に関する 令和元年5月1日 時点の情報)																													
中途退学 の現状		■中途退学者 3 名 平成30年4月1日時点において、在学者88名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者85名(平成31年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 経済的な問題、進路変更(就職等)、家庭の事情など。		■中退率 3.4 %																									
		■中退防止・中退者支援のための取組 クラス担任制により、日々の出席管理を厳格に行い、学生本人との面談のみならず保護者等とも連絡を取り、適切な指導を行っている。																											
経済的支援 制度		■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※リカレント生対象学費減免制度(入学時)、学業成績優秀者学費減免制度(進級時)																											
		■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																											

第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価： 無
当該学科の ホームページ URL	https://www.oct.ac.jp/course/robot

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

各専攻分野の学生の就職先業界における人材の専門性に関する動向や国または地域の産業振興の方向性、新産業の成長に伴い、新たに必要となる実務に関する知識・技術・技能などを十分に把握、分析した上で、大阪工業技術専門学校専門課程の教育を施すにふさわしい教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む)を行い、企業等の要請等を十分に活かしつつ実践的かつ専門的な職業教育を行うことを目的とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

企業と連携して実習、又は演習等の授業を行う際の職業実践専門課程の編成にあたり、実習又は演習等の授業の実施に加え、授業内容や方法及び学生の学修成果の評価について審議する機関として大阪工業技術専門学校教育課程編成委員会を置く。教育課程編成委員会で審議された授業(案)は、教務委員会へ附議の後、運営会議で承認を得て採用となる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和元年9月13日現在

名 前	所 属	任期	種別
筒井 博司	日本生体医工学会 関西支部 役員 (元大阪工業大学 ロボティクス&デザイン工学部 ロボット工学科 教授)	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	②
金川 善一	株式会社 カンセツ 技術部 部長	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③
清水 弥	マツモト機械株式会社 常務取締役	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③
伊東 和幸	学校法人福田学園 大阪工業技術専門学校 副校長	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	
宗林 功	学校法人福田学園 大阪工業技術専門学校 教務課長	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	
堀部 達夫	学校法人福田学園 大阪工業技術専門学校 ロボット・機械学科長	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	
善才 雅夫	学校法人福田学園 大阪工業技術専門学校 進路支援室長	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (9月、10月)

(開催日時(実績))

第1回 平成30年09月21日 15:00～17:00 (平成30年度)

第2回 平成30年10月26日 15:00～17:00 (平成30年度)

第1回 令和元年09月13日 14:00～16:00 (平成31年度)

第1回 令和元年10月11日 15:00～17:00 (平成31年度)

]

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

ものづくり教育をする姿勢として、講義系に於いては『ものづくりの本質』をしっかりと理解させる事を視点に置くと共に、実習系(CAD・製作実習等)では即実践的なカリキュラム構成となるよう検討する。また併せて、製作実習等では安全管理が必須なので、学生の意識向上を図るべく特別講義等の開催を検討する。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校では、専門知識や技術の習得に加えて職業実践の場で必要とされる現場での企画力、マネジメント力、コミュニケーション力、プレゼン力、営業力、会計力等の力(本校ではこれらを総称して「真の仕事力」とする)の育成を目指しています。原則、実習・演習等に於いては、積極的に企業等のプロフェッショナルの協力を得て授業内容や方法の設定、学生の学修成果の評価を行う。とりわけ、「真の仕事力」に関連する実践的かつ専門的な能力の評価については、企業等との連携によって行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業等との連携は、主として設計製図、制作実習、また設計、制作のみならずビジネス実務、マネジメント等までもを含めた総合的な職業実践に関わる実習等において行う。その結果として、学修評価は各科目ごとの全授業日程終了後に、企業等から学校に対して評価表を以って成績の報告が行われ、それに基づき学校にて単位認定を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
CAD実習 I	CADシステムは、設計者がコンピュータの助けを受けながら設計業務を進めるためのシステムです。人間の生産活動に必要な創造力を養い、実践する目的で、「基礎製図」、「図学」、「テクニカルイラスト」の科目とも密接に関連しながら効率よく設計・製図・製作をおこなうツールとして学習していきます。CADによる図面作成という操作を通じて、技術者にとって不可欠な資質、CADの基礎知識を修得します。	radix(レイデイクス)

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

職業実践教育にかかる実務研修規程に基づき、実務研修計画書の作成に当たっては、組織的に位置付けられたもの、且つ計画的なものとするため、教務委員会において原案を作成・審議の後、運営会議の承認を得るものとしている。その上で、専門分野の知識・技術の進歩、制度の変更、仕事に対する価値観の変化等、業界内外の動向をいち早く理解・分析し、それを教育内容や方法に反映させるための組織的な研修・研究を教員に対して行う。また同研修・研究において、授業及び生徒に対する指導力等の修得・向上を目指す。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「図解力向上と最新JIS製図講座、及び構想設計力強化講座」(連携企業等：日刊工業新聞社)
期間：平成30年5月25日(金)、7月24日(火) 対象：ロボット・機械学科専任教員
内容：設計意図を伝えるテクニックの修得、及び新製品の効率的な発想と設計手戻りの防止。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「教職員研修会Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」
(連携企業等：大阪府専修学校各種学校連合会)
期間：平成30年10月15日(月)・11月19日(月)・12月10日(月) 対象：専任教員等
内容：指導力向上講座①②③(中途退学者を出さない指導)

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ロボットによる自動化ライン構築のツボとコツ」(連携企業等：日刊工業新聞社)
期間：令和元年10月2日(水) 対象：ロボット・機械学科専任教員
内容：自動化工場の実現に向けたロボット導入の考え方・ロボットに合わせた生産ラインの見直しポイント
研修名「鉄鋼材料の熱処理と表面処理」(連携企業等：日刊工業新聞社)
期間：令和元年11月19日(火) 対象：ロボット・機械学科専任教員
内容：鉄鋼材料の熱処理と組織の関係、ひいては機械的特性との関係を学ぶ

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「教職員のための指導力向上セミナー」
(連携企業等：大阪府専修学校各種学校連合会)
期間：令和元年9月18日(水) 対象：専任教員等
内容：生徒や職員のモチベーションを高める組織づくり
研修名「インターネットトラブル」
(連携企業等：大阪府専修学校各種学校連合会)
期間：令和元年7月19日(金) 対象：教職員等
内容：生徒のネットトラブルの予防を考える

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、学校の教育活動、その他の学校運営の状況について、自己点検評価を行うと共に、企業等の役員等からなる「学校関係者委員会」に自己点検評価の結果を評価していただく。また、その結果をホームページ等で広く社会に公表すると共に、今後の教育活動及びその他の学校運営に活かすことをその目的、方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	学校の特色について(文科省委託事業：Society5.0について) 卒業生の動向について
(2)学校運営	人事(教員の採用、昇進・昇格)に関する制度について
(3)教育活動	教員の専門性、及び教授力の把握と研修について
(4)学修成果	学生の就職に関する目標達成について 資格取得に関する目標達成について
(5)学生支援	就職・進学指導に関する体制の整備と機能について
(6)教育環境	教育上必要な施設・設備の整備等について 防災に対する体制の整備について
(7)学生の受入れ募集	学生募集活動(募集定員の充足)について
(8)財務	予算・収支計画の有効性・妥当性について
(9)法令等の遵守	法令、設置基準等の遵守と適正な運営について
(10)社会貢献・地域貢献	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献について
(11)国際交流	留学生の受入れ等の戦略的な国際交流について

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

以下の項目について、運営会議に諮った。
【基準4:教育成果(就職率100%目標、及び100%維持とした方策)】
専門学校に於いては、数少ない学科群であることから、特に大手・優良企業からの求人も多い。但し、これらの大手企業からの内定を得るには、より盤石な就職対策が必須であり、筆記試験対策も含めた事前準備を十分な程に実施する必要性がある。また、ものづくり企業の事業領域は幅広く、何を事業主体としているのかという業界・企業知識の探求を推し進める必要性もある。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和元年9月6日現在

名 前	所 属	任期	種別
松山 義広	奈良県立奈良朱雀高等学校 建築工学科長	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	高校教員
延安 浩二	株式会社金山工務店 執行役員	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業等委員
河野 正道	住友精密工業株式会社 総務人事部アシスタントマネジャー	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業等委員
木口 特次	大阪工業技術専門学校(建築学科卒業)	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ)

URL: https://www.oct.ac.jp/assets/pdf/other/H30_gakkoukannkeishahyouka.pdf
公表時期: 令和元年10月10日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し大阪工業技術専門学校(以下「学校」という。)の教育活動、その他の学校運営の状況に関する情報(「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」で掲げられた項目-学校の概要、目標計画、各学科の教育、キャリア教育、学生の修学支援、教職員等)をホームページを通じて恒常的に情報提供する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要(沿革等)、学校の目標及び計画
(2)各学科等の教育	学校の教育方針、各学科の教育目的・カリキュラム編成、及び学生数等
(3)教職員	各学科の担当教員数(専任・非常勤講師)、他
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、及び就職支援等への取組
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組、及び部活動等の状況
(6)学生の生活支援	学生支援の方針、及び取組状況
(7)学生納付金・修学支援	各種就学支援制度 ※学生納付金等は(2-②)項目で記載
(8)学校の財務	学園の財務状況
(9)学校評価	自己点検評価、及び学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法
(ホームページ)

https://www.oct.ac.jp/assets/pdf/other/H30_zyouthouteikyou.pdf

授業科目等の概要

(工業専門課程 ロボット・機械学科) 平成31年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			基礎製図	機械製図で作成する図面は、設計者の考え、要求を言葉の代わり伝えるものであり、設計におけるきわめて重要な過程のひとつです。手書きの2次元製図の製図法を習得し、ねじ、歯車、軸継ぎ手などの簡単な機械部品の製図を通して、日本工業規格（JIS）に基づく機械製図法の基礎をしっかりと学び、将来、エンジニアとして設計を行うことができるようになるための基礎を習得します。本科目は、「CAD実習Ⅰ」、「図学」、「テクニカルイラスト」とも密接に関連して行われます。	1通	136	4			○					○
○			CAD実習Ⅰ	CADシステムは、設計者がコンピュータの助けを受けながら設計業務を進めるためのシステムです。人間の生産活動に必要な創造力を養い、実践する目的で、「基礎製図」、「図学」、「テクニカルイラスト」の科目とも密接に関連しながら効率よく設計・製図・製作をおこなうツールとして学習していきます。CADによる図面作成という操作を通じて、技術者にとって不可欠な資質、CADの基礎知識を修得します。	1通	136	4			○				○	○
○			製作実習基礎	自分で考え実際にそれを製作することにより、モノ作りへの理解が深まります。この実習では、機構や加工などを理解するために作品を作り、テーマに沿ったロボットを完成することにより機械全体のアウトラインを見る訓練を行います。授業では小型の有線型ロボットを製作し、ロボット大会を行います。様々な創意工夫から創造力も養います。	1前	136	4			○				○	○
	○		製作実習Ⅰ （ロボット機械）	各コースに分かれて実習を行います。ロボットクリエイイトコースでは全国専門学校ロボット競技会に出場するためのロボットを製作することを目的とします。電気機械専攻は電気を理解し、取り扱えるようになるための学習と実習を行います。第二種電気工事士の資格取得を目標にします。また、電子回路を応用した大型表示時計を設計、製作し理解を深めます。	1後	136	4			○				○	○
	○		製作実習Ⅰ （電気機械）	電気を理解し、取り扱えるようになるための学習と実習を行います。第二種電気工事士の資格取得を目標にします。また、電子回路を応用した大型表示時計を設計、製作し理解を深めます。	1後	136	4			○				○	
		○	コンピュータ演習	Windowsの基礎を学習して、業務などでも幅広く使われているアプリケーションソフトOfficeのワープロソフトの「Word」、表計算ソフトの「Excel」、プレゼンテーションソフトである「PowerPoint」についての操作を修得する。3つのソフトのリンク（連携）をして、幅広い使用法を学ぶ。人気のMOS（Microsoft Office Specialist）試験の一般の受験も目指す。	1通	68	4		○						○
		○	工業数理	機械系・電気系の技術者を目指す者にとって数学は必要不可欠である。この科目では専門科目を理解する為に必要となる。数学を重点的に学び、かつ演習問題を数多く行う事によって専門科目の理解を深めることを目標とする。	1前	34	2	○						○	
		○	材料力学Ⅰ	機械設計の基本は目的とする動きをどの様にして作るかを決めることである。そのためには、力学の基本を身につけてから専門科目を学んだほうが理解しやすい。ここでは、ロボットに関連する力学の基本を学んで、材料力学につなげていく。	1前	34	2	○						○	
		○	図学	図学の内容は平面画法幾何学と立面画法幾何学に分かれているが、平面図学については基本のみとし、立体図学の内容に重点を置く。課題は、基本的なものにしぼり、相貫体・展開図およびテクニカルイラストレーションについて学習し、立体の認識力・理解力を深めることを目的とする。	1前	34	2		○						○
		○	電気概論	我々の生活において必要不可欠なエネルギーとりわけ電気エネルギーはIT社会においては今後益々需要が増えると予想されます。将来の社会発展において電気の果たす役割は非常に大きく、また広範囲の産業分野に影響を与えます。この授業では、その電気の基礎原理を理解することにより、それらの法則や応用事例を通し、さまざまな場面においての電気の効用や有効利用を学び、電気を使いこなせるエンジニアの養成を目的としている。	1前	68	4	○	△					○	

		○	工業材料	私たち、機械技術者が扱う機械（工作機械・産業機械…etc）、高速で移動する交通機関、工場で活躍する各種ロボット、冷蔵庫・テレビなどの家庭機器、携帯電話・パソコンなどの情報通信機器、大きな構造物、家庭用の小さな道具、そのほかあらゆるところに、あらゆるものに、あらゆる形で、金属・プラスチック・セラミックなど、多くの材料が使われている。当科目では、これらの各種材料の特性・組成・用途などの理解を深め、計画的・経済的な活用と有効に利用できる能力を養うこと目標として学ぶ。	1 前	34	2	○						○		
		○	材料力学Ⅱ	機械設計の基本は目的とする動きをどの様にして作るかを定めることであり、その中で材料力学は強度計算を受け持つことになる。力学的に見て、材料の効果的な使い方が出来るよう、理論説明ばかりではなく演習にも力を入れ、設計での応用力を高めるようにしていく。	1 後	34	2	○							○	
		○	加工技術	機械類を製作するときに要望されることは、優良品を低い原価でしかも短い期間につくることであります。製品は日々に進歩し、競争は刻々に激化します。この競争に打ち勝つためには優秀な技術を必要とします。工程管理、作業手法などの製作管理そして製作方法の優秀さを欠くことはできない。素材の製作から最終製品に仕上げ、組立てるまでには、常に特別の考慮を払わねばなりません。そのためには製作方法の原理原則を知り尽くし、それを基礎としよう心がけるべきである。本科目では、製作品種に応じ、業態に適するよう各種加工法を学ぶ。	1 後	34	2	○						○		
		○	要素設計	機械の機構設計に必要な機械要素の設計を中心に解説する。材料力学との関係が深いので、この2科目を関連付けて授業を進めていく。	1 後	34	2	○						○		
		○	電子回路	電子技術の発展はコンピュータを生み出し社会のあらゆる場面で我々の生活を支えている。ここでは、半導体中の電子の振る舞いから半導体の動作、アナログ回路などの応用事例を通し、さまざまな場面においての電子の効用や、利用方法を学び電子回路の動作を理解できるエンジニアの養成を目指す。	1 後	34	2	○						○		
		○	ソフトウェア演習	コンピュータによる機械制御が出来るよう、C言語によるプログラミングの考え方を説明する。また、基本的なアルゴリズムの理解とフローチャートが書けるよう指導する。	1 後	34	2		○					○		
		○	テクニカルイラスト	「テクニカル イラストレーション（立体図）」は立体を描写することであり、その思考の基礎は投影理論にもとづいた図形の製法を覚えることにあります。作図に便利で、見る側にもそれぞれ十分に理解できる慣用図法・簡略図法がいくつかあります。これを身につけ練習を積み重ねて立体図全体を、いかにわかりやすく美しく見せるかという仕上げの方法と実用性をたかめる技法を習得します。本科目は、「CAD実習Ⅰ」、「基礎製図」、「図学」とも密接に関連して行われます。	1 後	34	2		○						○	
		○	流体力学	流体（水や空気など）の運動の法則について考える。前半は粘性をもたない完全流体について法則を学び、後半は粘性の影響を実験的に補正していく方法を学ぶ。	1 後	34	2	○						○		
		○	キャリアデザインⅠ	学んだ専門知識や技術を実務の場で発揮するための土台となる社会性の獲得や職業観の涵養を目的とする	1 通	68	2	○						○		
○			CAD実習Ⅱ	「CAD実習Ⅰ」で修得した知識を存分に発揮し、技術者にとって不可欠なCADに関する資質を養います。【前期】身近な工業部品を図面化（組立図・部品図・3D図面等）します。公募設計・アイデアコンテストに応募参加します。【後期】卒業制作の制作図書作成を行います。チーム（各自）で決定した課題に従い、仕様書、動作説明図、システム説明図、組立図、部品図、回路図、結線図等を作図します。	2 通	204	6			○				○	○	
○			総合制作実習	1年間で学んだ製作実習Ⅰの内容を更に発展させる。製作する課題を研究し、図面を作成しながら製作工程を自分で考え加工する。課題内容についてはガイダンスで詳しく説明する。	2 後	68	2			○				○	○	
○			卒業制作	2年間の総まとめとして、各人の創造力・製作力を養いながら、作品を完成する。学生主導で自主性が求められる科目である。	2 後	68	2			○				○	○	
	○		製作実習Ⅱ（ロボット）	1年生で学んだ知識を活かして製作します。前期はアクチュエータ実習、アームロボット実習及びマイコンロボットの製作をします。後期は卒業制作をします。	2 通	272	8			○					○	

	○	製作実習Ⅱ (機械技能)	1年間で学んだ製作実習Ⅰの内容を更に発展させる。前期では歩行ロボットの製作、そして金属材料の加工方法を溶接やヤスリがけなどの手仕上げ作業により学ぶ。後期は卒業制作に関する内容で、各種ロボットやロボット大会参加作品など卒業に向けての作品を製作する。	2通	272	8			○				○		
	○	製作実習Ⅱ (電気)	生活家電の構成、部品、動作を座学と実物の分解、組み立てを通じて理解し、故障診断などを通じて電気利用の幅広い知識と技術を習得します。家電製品エンジニア(生活家電)資格の取得を目指します。	2通	272	8			○				○		
		○ 機械設計Ⅰ	1年次では個々の学問として力学系の授業などを学習してきたが、この機械設計の授業ではそれらを有機的に活用して実際の機械を設計するにはどうするかを基礎から学ぶ。	2前	68	4			○				○		
		○ 産業機械	産業界のさまざまな機械を取り上げ解説するとともにその歴史や時代背景なども学ぶ。その中でも特にエネルギーを変換し産業に利用してきた歴史を持つエネルギー機械は内燃機関をはじめ蒸気機関や流体機械などですがそれらについては特に詳しく学ぶことになります。	2前	34	2	○						○		
		○ プロダクトデザイン	3Dソフトでモデリングすりことにより、物を三次元で考え、形状を把握しつつデザイン出来る力を身に付ける。又、イラストレーターやフォトショップ等、実際の現場でも幅広く使用されているデザイン系のソフトも併用しプレゼンテーションするということにも触れていく。	2前	68	4			○				○		
		○ 3D-CAD	今までの2次元データによる商品開発の流れでは、かなり図面が完成しないと各部門に情報が伝わらなかった。試作品が完成するまで問題点がわからないこともある。この問題を解決するために現在、機械系のモノづくりの設計は、3次元設計が主流になりつつある。3次元データならば計画当初から関連部門でデータを共有でき、そのデータを使って効果的な作業が同時に進行できる。3次元CADをツールとして、モノづくりの「設計・デザイン・製図」部分を効率よく活用するための知識を修得する。	2前	68	4			○					○	
		○ マイコン制御	マイクロコンピュータは今や「マイコン」という言葉で一般化し、ほとんど全てと言っても過言ではないほどの製品に組み込まれている。パソコン、テレビ、ビデオ、冷蔵庫、携帯電話、車、腕時計、ロボット等など日々の生活に無くてはならないものに使われている。ここではこれらの中でマイコンがどんな役割をし、どんな可能性を持っているかを解説し、実際にプログラムを作成しマイコンを思い通りに動かすことで理解を深める。	2前	34	2			○				○	○	
		○ ロボット概論	ロボットは、人間や動物をモデルに人間が人工的に作り出した機械である。ロボットを理解するためには、機械工学、電気・電子工学、情報工学の基礎が必要になる。ここでは、どんなロボットが現在存在し、今後望まれているかを認識した上で、ロボットの各仕組みと考え方を見ていく。	2前	34	2	○	△					○	○	
		○ 機械設計Ⅱ	1年次では個々の学問として力学系の授業などを学習してきたが、この機械設計の授業ではそれらを有機的に活用して実際の機械を設計するにはどうするかを基礎から学ぶ。	2後	68	4			○				○		
		○ 熱力学	自動車のエンジンや空調機器など熱エネルギーを応用した機器や、熱の影響を受ける機械など熱力学は機械設計上重要な科目の一つである。熱力学は難しいというイメージがあるが、ここでは数式よりも考え方に重点をおいて説明していく。	2後	34	2	○							○	
		○ センサ技術	センサは、力とか温度、距離その他いろいろの工業量を電気の信号に変えて取り出す素子です。この信号は、デジタル信号に変換されてのち、各種の測定器やコンピュータなどの情報処理装置に取り込まれます。またアクチュエータやマイコンとつながって制御されます。そこでロボットなどの機械制御の基礎知識としてセンサの原理と用途について学びます。	2後	34	2	○						○		
		○ 機械力学	多種多様な複雑そうな機械も、機械をつくりあげている要素を見てみると、案外簡単な構造の集まりで、限られた種類の運動をしています。機械には、必ずどこかに力が働いていて、どこかが動きます。機械工学を理解するためには、「どこに・どんな力が作用しているか」を知る必要があります。一般に力学は難解と云われますが、講義ではできるだけ「簡明」で「わかり易く」、また多くの例題や演習を採りいれて理論の発展できる能力を養いえることを目標として学ぶ。	2後	34	2	○						○		
		○ 工業英語	海外との情報のやり取りの多くは英語を用いることが多く、特に技術者にとっては専門の文献や雑誌・カタログなど工業英語を習得することは今後ますます必要になると思われる。まず英語アレルギーの人はそれを取り除きやさしい文章から入って徐々に展開して行きます。また、分野としては、機械・メカトロニクス・電気分野に限定します。	2後	34	2	○							○	

		○	キャリアデザインⅡ	学んだ専門知識や技術を実務の場で発揮するための土台となる社会性の獲得や職業観の涵養を目的とする	2 通	68	2	○						○		
合計					37科目	2,312単位時間(98単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件は、1年次・2年次の必修科目・選択必修科目合計34単位の履修合格を含め、自由選択科目から履修合格した単位との総合計が74単位以上であること。また原則として、学科内コース別選択科目を除き全科目を履修することとしている。		1 学年の学期区分	2期
		1 学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。